

Noto PLUS

6



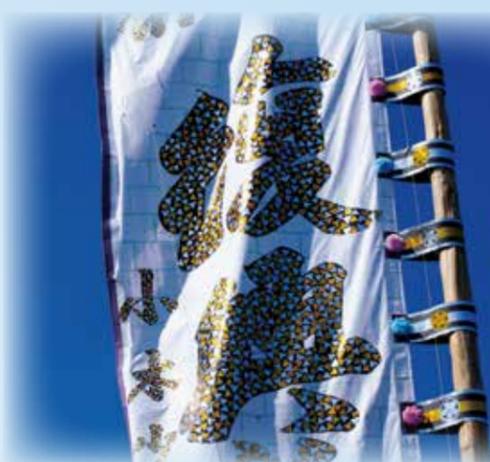
広報のと 第231号
令和6年6月1日発行

発行：能登町 編集：総務課
〒927-0402
石川県鳳珠郡能登町宇出津卜字50番地1

☎：0768-62-1000(代)
能登町 URL：https://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp
df@town.noto.lg.jp

復興を誓って—— 小木中最後の『とも旗』

海の安全と豊漁を願う小木地区の伝統的な春祭り「とも旗祭り」。今年は震災の影響で、神事以外は中止となりましたが、5月2日・3日には一つの大きなとも旗が青空にたなびきました。
これまで祭りに合わせて小木中学校の3年生が、地元の方と協力し、とも旗を制作してきましたが、震災により祭りは中止。とも旗制作も中止となるかと思われましたが、小木中学校が本年度で閉校になること、そして地域の方に希望をもってほしいという思いから、地元有志のみなさんと小木中学校全校生徒による、とも旗づくりが企画されました。



青空にたなびく『とも旗』

5月2日、小木中学校として最後となる、とも旗起こしが始まります。本来の祭礼と同じように、御船神社の水島宮司が祝詞を挙げ、祈禱を捧げました。神事を終えると、太鼓を打ち、笛を吹き、「ヨイトショー」の掛け声とともにとも旗を起こします。じりじりと少しずつ起き上がっていく旗。参集した園児や小学生、地区の大人たちも一緒に「ヨイトショー」と声をはって生徒たちを後押しします。青空を背にとも旗がたなびくと、自然と拍手が沸き起こりました。

『とも旗』の下で

しっかりと立ち上がったとも旗。
全長30mとなる勇壮な旗は、海風にたなびき「復興誓能登」の文字が陽光に煌めきます。この場所に集った皆が、とも旗を見上げ、明日への希望を感じ取っているようでした。



生徒会長の浦田羽菜さんは、「最後になるので全校生徒みんなまでできたことが思いに残った。町の人に元気になってもらいたいし、希望を持ってもらいたい。これからも頑張ってほしい」と話してくれました。
これからの未来を担う若い世代が復興への強い思いを持っていることを、とても力強く、頼もしく感じます。

「復興誓能登」

「したい」を「できる」にするチカラ。
企画メンバーの一人で、とも旗制作を指揮した和嶋陽一さんが生徒たちに伝えていた言葉です。
小木中学校の生徒は今回の目標を見事にやり遂げ、大きな経験をえました。この経験は血肉となって、今後も色々な「したい」を「できる」にしていく。きっと、旗に込めた想いも——。

朝日に誓う

とも旗に力強く記された「復興誓能登」
ここには、復興は自分たちでしていくものだから「誓う」という思いが込められています
他人任せな「願う」ではなく、自分たちが実現していくと「誓う」生徒が、地元の大人たちが、避難者が、みんな同じ思いを胸に一つのとも旗を作り上げました

(小木港 5月2日)



「広報のと」6月号の印刷費は一部当たり 36.3円です。

